
ネズミ小僧

M.M

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ネズミ小僧

【Nコード】

N0971C

【作者名】

M・M

【あらすじ】

夏休み前に田舎にきた脱力系少女のりんと彼女の気まぐれで助けられたネズミ。一人と一匹？の奇妙な七日間。

初日

暑い。

汗がでてきた、暑い。ムカツクくらい暑い。

冷房はなく冷蔵庫は生暖かい。

コンビニらしきものはなく、あるのは畑、広くない道路にご老人が一人。

夏休み直前に高校生活二回目の私、森永 りんがこんなヘンピな田舎に来た理由は法事ともう一つ理由があった……

ミーンミーンミーン
ミーンミーンミーン

外からダイレクトに聞える。冷房はなく汗まみれで探し出し扇風機を見つけたはいいが、回転がイマイチで全然涼めない！

蚊取り線香をたいて窓を全開にあげた。
が、やっぱり暑い……

一年ぶりにきた父の実家は荒れ放題だった……

元からボロ家だったそこはさらに磨きがかかっていた。ごみと言っ
べきか否か、物が散乱して足の踏場はわずか……

カサカサッ

物に埋もれている部屋でそんな音がした。
なんだろうと思う、行くと驚いた。

チュウチュウチュウ

ネズミだ！

しかも一匹だけでなく数匹いてたむろしていた。

「ぎゃっネズミがいる！お父ーさんっネズミ！」

「本当だ！しっしっ！」

カサカサカサカサ

ネズミはいなくなったがフンや食べ散らかした足跡は残った。

カサカサ

カリカリ

天井から聞えてきた。まだ小さい住民がたくさんいるようだ……

（こんな所で一日でも泊まれるかっっーの！！）

もうやだ。

帰りたい。

今日にも帰りたい。

もう切実に帰りたい。

「どーやって寝んのよ?!こんなごみ屋敷並な部屋で!」

「ちょっと片付けして布団しけばいいだろ」

「嫌ーっ!フンだらけだは、ごみの山はでバイ菌いっぱいじゃない!布団だってホコリまみれよっ!」

母と父が言い争う最中、私は布団が無事が見に行った。

(こんな事なら私一人来るんぢやなかったっ)

…実は私には姉と妹がおり、2人共夏休みにバイトやら部活で行きたくないと言って来なかった。

私だけがヒマ人で生贄となってしまった、

(くっそー学校休めたはいいが逆に損した気分だっつーの)

私はよくぶちぶちと愚痴を思うが決して人には口で言わない。

面倒だからだ。

何を考えてるの？とか悩んでるの？

と質問されても一から十まで説明をしてもキリがないから答えはいつも同じ。

「別に。」

こんな事ばかりだからあまり友人はいない。

気を許せる友人は一人もいない。

別に寂しいとかはなく毎日が脱力したような日々を送っていたが、不満はなかった。

(うわっ 布団カビカビじゃんかっ)

マシなのはないかと探そうと思ったたら足下にあった物を蹴ってしまった。

ちゅうちいーちいー

なんと鳥もちならぬネズミもちにかかっていた小ネズミ一匹がいた。もう虫の息みたいだ。

始めに見た時は驚いたが動けないなら別に怖がる必要もない。

こんなに近くで見る機械がなかったため気がついたら穴が空くくらい見ている。

(よく見るとちよっと可愛い…か?)

見ていたら変に情がついてしまった。

好奇心でついついさっき食べたカップ麺のかやくをあげてしまった。

小ネズミくんはもちにくつついた手足を引張りなが貪るようになら食べていた。

(別に癒されはしないけど、退屈しなきゃならぬ…)

そんな事を思いながら今日が終わろうとしていた。

これが私と小ネズミくんの出会いであった

二日目

身体中が痛い。
きしきしと痛い。
クビが一番に痛い。

昨日の夜はあまり寝れなかった。布団はダメだったので毛布を何枚か集めて丸まって寝てた。

話合いの結果、この家がきれいになるまでは寝泊まりの時ビジネスホテルに行くこととした。

けど、膨大なごみをどこから片付けようか考えると気が萎える…。

とりあえず小ネズミくんの様子が気になったので昨日の残りのかやくをもつていった。

ちちっちいちいっ

相変わらずもちにくつついたままだが、幾分か元気になったみたい

だ。

ネズミが減らない理由はこの生命力の強さなんだろうな……。

えさを口に運んでやると嬉しそうに食べてるように見える。

（まあハムスターもネズミだし、顔とか似てんな……）

ただ黙々と小ネズミくんを観察し、時々引張って取れるか実験してみるが、やっぱり取れないようだ。

（簡単にとれたらこんもん売れないもんな。小ネズミくんよ悪いな。）

とりあえず見つからないような場所に避難させようと思い、ウロウロしてみた。

見つかったら駆除されるかわからないからだ。

小ネズミくんの新たな家？は台所奥にある物置の陰に決定した。

ちゅっちい
ちい

どーやら気に入ったみたいだ。

小ネズミくんの仲間が集まらないように周りに堤防まで作ってやる。

まるで秘密基地を作ってるみたいな感覚だ。

(私もまだまだ子供じみた事をするな…)

フツと鼻で笑って秘密基地を後にした

私はこの状況と妄想をねり混ぜながら片付けを淡々とした。

まず、敵はごみの山。もちろんネズミもゴキブリもだ。

あの小ネズミくんは残念ながら捕まってしまった捕虜なのだ。

だが我々の真の目的は敵の巢、つまりこのボロ家の破壊だ…。

なぜ破壊するかというと敵に占領寸前まで追いやられた我が軍（父の一家）。とうとう父一人になった。

しかし父は別の基地をもっており、そこを統括する立場の上に私達を養うという任務が残っているため基地をやむなく破壊となった。

そんな事を考えてたら思わずフツとまた笑ってしまった。

「不気味な子ねーアンタ今何に笑ったのよ？」

母がどうやら見てたようだ。

なんとも目敏い女だ…

「別に」

説明するのも億劫でいつもと同じ決まり文句を言う。

本当に冷めた子ねーっもうちょっと可愛いく笑いなさいよね

母の声を聞えないフリをして、私は目前の敵を片付ける事に専念した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0971c/>

ネズミ小僧

2010年10月29日13時24分発行